

神川正彦著述目録

神川正彦先生略年譜

- 一九二九年十一月五日 神奈川県鎌倉市に生まれる
- 一九四九年 旧制湘南中学校、旧制鎌倉学園鎌倉中学校を経て、都立高校
(四八年学制改革により都立新制高等学校と改名)卒業
- 一九五三年 東京大学文学部卒業(卒業論文はカント哲学に関して)
- 一九五五年 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士課程修了
(修士論文はライプニッツの神と精神の問題について)
- 一九五八年 同右博士課程単位取得
- 一九五八年 明治大学農学部非常勤講師
- 一九六三年 神奈川大学外国語学部専任講師
- 一九六四年 同右助教授
- 一九六八年 同右教授
- 一九六九年十二月〜一九七〇年七月 神奈川大学学長代行
- 一九七三年二月 「歴史における言葉と論理」にて東京大学より文学博士
の学位を取得
- 一九七六年九月 神奈川大学依願退職
- 一九七六年十月 國學院大學文学部教授
- 一九八三年 比較文明学会設立発起人。設立後理事就任
- 二〇〇〇年三月 國學院大学定年退職、同大学名誉教授
- 二〇〇〇年七月 日本価値観変動研究センター設立
- 二〇〇九年三月十三日 死没

凡例

- ・この目録は、哲学者神川正彦先生の、現在わかる限りでの全著述目録である。
- ・一人の人間がどのような時にどのようなことを考えていたかを知る手掛かりを得ることを目的とし、そのために公刊年代順に配列した。
- ・記述は、分類（次に述べる基準による）、著述物名、著述物掲載物、編者（必要に応じ）、発行所（雑誌の場合は初出のみ。紙誌名等から発行者が容易に推察しうるものは省略）、巻数号数、発行年月（新聞は月日）、掲載ページ（新聞の場合は省略）の順とした。
- ・分類は私的な基準による。すなわち、単著、編著、共著（単行本であつても論文として扱ったものもある）、論文、小論（二、三ページのもの）、短文（一ページの半分以下のもの）、書評、詩、その他（座談会、シンポジウム記録、講演記録、対談等）に分けた。
- ・神川先生が編集・発行人であつた『日本価値観変動研究センタークォーターリーリサーチレポート』からは、神川先生の論稿のみ掲載した。
- ・本目録は、柴田隆行と須佐俊吾が調査し、柴田が編集した。調査に際しては多くの方のご協力をいただいた。ここに一言御礼申し上げたい。

著述目録

- 詩「雀」、『詩性』（青帆詩社）創刊号、一九四六年七月、『焰』第八二号、二〇〇九年六月に復刻）
- 詩「牛」、『詩性』第一卷第二号、一九四六年八月（同右）
- 詩「己を内に索む」、『詩性』第一卷第四号、一九四六年十一月（同右）
- 詩「自然と自我」、『詩性』第一卷第五号、一九四六年二月（同右）
- 詩「聖パスカルの理性像に祈る歌」、『詩性』第二卷第四号、一九四七年四月（同右）
- 詩「プロメテウスによせて」、『詩性』第四卷第一号、一九四九年一月（同右）
- 詩「福田正夫追悼」、『漏れ日』一九五二年九月
- 論文「対話としての哲学のために 上山春平の方法」、『思想の科学 第四次』（中央公論社）第九号、一九五九年九月、七一〜八五頁
- 論文「倫理的価値「問題」の探究の基礎」、『哲学雑誌』（有斐閣）第七五巻第七四四号、一九六〇年六月、二五〜四三頁
- 論文「国際政治の変貌と人間観の転換」、『国際政治の理論と思想』（日本国際政治学会編、有斐閣）一九六二年一〇月、一七〜三六頁
- 論文「人間存在についての覚書 単独者と全人類の間」、『人文研究』（神奈川大学）第二五号、一九六三年一二月、六三〜一〇四頁
- 論文「歴史における行為の説明 Causes, Motives, Dispositions, Reasons, Laws」、『戦後の思想と社会』（創立三五周年記念論文集編集委員会編、神奈川大学）一九六三年一二月、五五〜五七八頁
- 論文「歴史のことは 歴史記述の「場の理論」への試み」、『人文研究』第二七号、一九六四年三月、一九〜六〇頁
- 論文「知識人の終焉 知識人の変遷」、『季刊社会科学』（経済往来社）第二号、一九六四年五月、五〜一七頁
- 論文「疎外の論理と「進歩としての歴史」 疎外論の克服のために」、『人文研究』第二八号、一九六四年九月、一〜三四頁
- 論文「歴史の総合的性格とその分化性 歴史科学の基礎について」、『科学基礎論研究』（科学基礎論学会）第二四号、一九六四年一〇月、二六〜三三頁
- 論文「歴史の意味への問い 一つの形而上学的問いの解剖学」、『人文研究』第二九号、一九六五年二月、七九〜一一九頁
- 論文「明治維新論の再検討のために」、『人文学研究所報』（神奈川大学）第一号、一九六五年三月、一六〜二七頁

単著『哲学の水エティカ』理想社、一九六五年四月、全二三八頁

小論「ひろい読書とふかい読書のすすめ」『神奈川大学報』（神奈川大学）一九六五年六月二一日

短文「アンケート ベトナム危機にいかに対処するか」『外交時報』（外交時報社）一九六五年八月

論文「歴史の構図(上)」その「ひろさ」と「ふかさ」『人文研究』第三一〇号、一九六五年一〇月、一〜四三頁（『歴史における言葉と論理』に編入）

小論「ひろい読書・ふかい読書」「ヘーゲルのことば」「ゼミナールの若い芽」『学生とともに』大学・学問・人生（神奈川大学人文学会）一九六六年一月、七七〜八一、八二、八三〜八七頁

論文「明治二十年代における思想的営み」『人文研究所報』第二号、一九六六年三月、二〇〜三八頁

論文「歴史の構図(中)」その「ひろさ」と「ふかさ」『人文研究』第三三〇号、一九六六年三月、四九〜九八頁（『歴史における言葉と論理』に編入）

小論「ゼミナリストとは何か？」新人ゼミナリストを迎えるに当たって『神奈川大学人文会報』一九六六年四月一日

論文「国際政治における統合と分裂の価値問題 国際政治理論の基礎規定」『東西世界の統合と分裂』（日本国際政治学会）一九六六年五月、一二九〜一四二頁

論文「平和と哲学」『潮』（潮出版社）第七一〇号、一九六六年五月、六〇〜八一頁

論文「価値の破壊と創造のために 現象学的価値論のための一序説」『理想』（理想社）第三九八号、一九六六年七月、一九〜二八頁

論文「国民的合意に危険はないか コンセンサスづくり という考え方は根本的に考え直されねばならない。それは何故か」『経済往来』（経済往来社）第二八号、一九六六年九月、一八〜三五頁

論文「歴史の構図(下)」その「ひろさ」と「ふかさ」『人文研究』第三四〇号、一九六六年一〇月、七五〜一四一頁（『歴史における言葉と論理』に編入）

論文「理想主義と現実主義の対話 知識人の在り方について」『潮』第七八号、一九六六年二月、一七四〜一八五頁

小論「国際平和と「国民」の意識 まず自分なりの国民意識の確立を」『サンケイ新聞夕刊』一九六七年一月七日

論文「禅のコトバと一般意味論」『人文研究所報』第三号、一九六七年三月、二五〜四六頁

論文「神話・歴史・ユートピア 現象学的価値論のなかの或る一節のために」『理想』第四〇七号、一九六七年四月、二〇〜二九頁

論文「歴史における物語性 歴史のことば(中の一)」『人文研究』第三六号、一九六七年四月、一〜五六頁（『歴史における言葉と論理』に編入）

小論「宗教の無視か改革か 神道の場合を手がかりとして」『神奈川大学報』一九六七年五月一〇日

- 論文「福祉世界の論理と人間観の転換 改革の哲学」『潮』第八五号、一九六七年七月、一〇二〜一三〇頁
- 論文「東南アジアに対する援助の理念と実態 序章」『東南アジアと日本』研究シリーズ(その一)、『一九六七年一〇月、一〜一〇頁
- 論文「歴史における物語性 歴史のことば(中の一)」『人文研究』第三七号、一九六七年一〇月、一〜八三頁 (『歴史における言葉と論理』に編入)
- 論文「世論の知識人化とはなにか “世論” という常識化した壁は破られねばならぬ」『経済往来』第二九号、一九六七年二月、六八〜八五頁
- 論文「現代日本の精神状況と政治状況 ナショナリズムとアナーキズムの悪循環を断つために」『経済往来』第三〇号、一九六八年一月、二二〜三二頁
- 翻訳 H・ドレイ著『歴史の哲学 (哲学の世界、九)』培風館、一九六八年一月、全二〇五頁
- 論文「比較思想論序説 作者と読者」『人文研究所報』第四号、一九六八年三月、一〜二七頁
- 書評「清水幾太郎著『現代思想 上』」『神奈川大学新聞』(神奈川大学新聞部)一九六八年四月一五日
- 論文「歴史叙述のコンシスタンス 歴史のことば(下)」『人文研究』第三九号、一九六八年五月、二七〜九六頁 (『歴史における言葉と論理』に編入)
- 小論「身近な問題から改善しよう(提言 政治を良くするために)」『現代政治』(現代政治研究所)第五号、一九六八年七月、二〇頁
- 論文「日中関係の新展開をもとめて 中国の存在は我が国の宿命である」『現代政治』第八号、一九六八年一〇月、三〇〜三九頁
- 論文「歴史認識問題の歴史的定位 歴史の認識(上)」『人文研究』第四〇号、一九六八年一〇月、一〜五八頁 (『歴史における言葉と論理』に編入)
- 短文「警官導入は非(紛争の問題点に答える アンケート)」『経済往来』一九六八年一月、一八九頁
- 講演「歴史の新しい解釈について」『トインビー市民の会会報』(トインビー・市民の会)第三号、一九六九年一月、一〜三頁
- 論文「歴史的説明の諸相 歴史の認識(中の一)」『人文研究』第四二号、一九六九年三月、一〜五九頁 (『歴史における言葉と論理』に編入)
- 書評「K・マンハイム著『歴史主義・保守主義』 歴史主義の再評価 文明の危機的な転換点を示唆」『日本読書新聞』第一四九八号、一九六九年三月一〇日
- 小論「真に大学の存在意味を問え」『神奈川大学学術連合会新聞』一九六九年四月三〇日
- 小論「来るべき大学の出発点」『ゼミナリスト』(神奈川大学)一九六九年五月一〇日
- 書評「H・マルクーゼ著『文化と社会 上』」『日本読書新聞』一九六九年九月一日
- 小論「二十世紀の逆説的原点 後文明社会とニヒリズムの超克」『日本読書新聞』第

一五二一頁、一九六九年九月八日、一頁

論文「歴史のことば」『哲学雑誌』第八四巻第七五六号、一九六九年一〇月、五〇〜七〇頁

短文「混乱の今日に大道を」『聖教新聞』第一九六九年一〇月二三日

論文「現代政治の革命と改革 社会主義イデオロギーの問題」『現代政治』第二二号、一九六九年一二月、一六〜二七頁

論文「歴史の説明の諸相 歴史の認識(中ノ二)」『人文研究』第四三号、一九六九年

一二月、一〜五四頁 (『歴史における言葉と論理』に編入)

書評「エーリヒ・フロム著『希望の革命』」『素朴な知的白昼夢』を弾劾 マルク

「ゼへの厳しい反措定」『日本読書新聞』一九六九年一二月二二日

短文「国・公・私の差別撤廃を」『私学共済』一九七〇年一月、二〇〜二二頁

論文「国際的コミュニケーションの一般意味論 対立と協調のセマンティクス」『人文研究』第四五号、一九七〇年三月、一三三〜一五三頁

短文「同窓会に贈る言葉」『神奈川大学同窓会報』第三号、一九七〇年三月二五日

小論「新人生諸君に 大学改革の抱負」『神奈川大学通信』第八九号、一九七〇年四月一五日

短文「工学祭(学長代行あいさつ)」『第五回工学祭パンフ』(神奈川大学工学祭実行委員会)一九七〇年五月

小論「自分自身と学問の存在意味と存在連関を問え」『神奈川大学学術連合会新聞』一九七〇年五月一日

短文「第七回「あやめ祭」に当って」『神奈川大学文化連合会機関紙』一九七〇年五月二八日

書評「R・G・コリングウッド著『歴史の観念』 歴史哲学の原点が 古代哲学から現代哲学までのユニークな概観」『日本読書新聞』一九七〇年七月二〇日

単著『歴史における言葉と論理 歴史哲学基礎論』勁草書房一九七〇年一〇月、全四五九頁

論文「参加 その現代的意義 一元的文明構造への挑戦」『経済往来』第三二号、一九七〇年一二月、一四〜二二七頁

小論「ゼミナールとは何か?」『神奈川大学人文会報』(神奈川大学人文学会)第一九号、一九七〇年一二月、一頁

論文「政治とイデオロギー」『公明』(公明党機関紙局)第九九号、一九七一年一月、三六〜四七頁

単著『歴史における言葉と論理 歴史哲学基礎論』勁草書房一九七一年一月、通八八三頁+六二頁

短文「アンケート 日中国交の具体的方策」『外交時報』第一〇八二号、一九七一年二月

論文「歴史主義と歴史及社会科学の方法論的変貌をめぐる思想的破壊の覚書(一)」『人文研究』第四八号、一九七一年四月、二九〜七六頁

- 論文「世界史における時代区分の諸問題（一）」比較歴史学の前提』人文科学研究報』第五号、一九七一年六月、一〇一―一七頁
- 論文「歴史主義と歴史及社会科学の方法論的変貌をめぐる思想史的破壊の覚書（二）」『人文研究』第四九号、一九七一年七月、一四七―一六六頁
- 書評「大森莊蔵著『言語・知覚・世界』」存在と意識」の追究の軌跡 自然科学的世界像の七つ意味の解明』『週刊読書人』第八八七号、一九七一年八月二日
- 論文「集団時代の倫理」『自由』（自由社）第三卷第一〇号、一九七一年一〇月、一六四―一七三頁
- 書評「ウナムーノ再考 時代相を基本にして スペインの思想的転換を告げ」『日本読書新聞』一九七一年一〇月一日
- 論文「言葉のテキストとコンテクスト 思想史的破壊の覚書・原理論（一）」『人文研究』第五〇号、一九七二年一月、五七―八〇頁
- 書評「市井三郎著『歴史の進歩とはなにか』 新しい歴史創造への心情が吐露 進歩史観の検討から価値基準の批判と価値尺度の提案へ」『日本読書新聞』一九七二年一月一日
- 書評「私の書評 武藤光朗著『経済倫理の実存的限界』」『自由』一九七二年二月、一五四―一五五頁
- 論文「言語の問題と歴史主義」『思想』（岩波書店）第五七二号、一九七二年二月、七二―八五頁
- 書評「伊藤勝彦著『知性の歴史』 強烈な願望の模索 有機的全体としての人間知性を描き」『日本読書新聞』一九七二年三月二〇日
- 書評「大熊信行著『日本の思潮 上・中・下』 戦後論壇の流れを映す」『公明新聞』（公明党機関紙局）一九七二年五月一日、八頁
- 論文「世界史における時代区分の諸問題（二）」比較歴史学の前提』『人文科学研究報』第六号、一九七二年六月、二九―五三頁
- 書評「E・カッシーラー著『象徴形式の哲学 第一巻言語』 言語の認識批判的考察 先駆的な仕事として、はじまり」の問題性を明かにする」『週刊読書人』第九一九号、一九七二年六月五日
- 書評「大木英夫著『終末論』、中村雄二郎著『制度と情念と』、芝原拓自著『所有と生産様式の歴史理論』（印象に残った本）」『週刊読書人』一九七二年八月二日
- 論文「言葉のテキストとコンテクスト 思想史破壊の覚書・原理論（二）」『人文研究』第五二号、一九七二年九月、一―三八頁
- 論文「哲学にとつて読むとは何か」『第三文明』（第三文明社）第一四〇号、一九七二年一〇月、三六―四一頁
- 書評「E・ムーニエ著『人格とアナキー』 民衆の自発性への確固たる信念 うむことなき対話の可能性の追求」『日本読書新聞』第一六七四号、一九七二年

年一〇月三〇日

短文「日中共同声明に対する評価乃至批判（アンケート）」『外交時報』第一一〇〇号、一九七二年十一月

短文「飛躍的な前進で、現状の打破を」『公明新聞』一九七二年十一月五日

書評「竹内芳郎著『言語・その解体と創造』」現代言語界の一頭地抜いた業績」『公

明新聞』一九七二年十一月九日

書評「竹内芳郎著『言語・その解体と創造』」思想的な営為の一つの結実 言語の

階層性を基本とする言語論の展開」『週刊読書人』第九五三号、一九七二年

十一月二〇日

書評「私の書評 志水速雄著『ペテルブルグの夢想家』」『自由』一九七三年一月、

一一〇～一二二頁

論文「言語のテキストとコンテキスト 思想史的破壊の覚書・原理論(三)」『人文研

究』第五四号、一九七三年一月、四九～九〇頁

書評「清水幾太郎著『人生というもの』」生きる 中で味わうべき書」『公明新聞』

一九七三年一月二一日

書評「歴史意識の変革 丸山真男編『歴史思想集』」によせて 容易ならざるもの

への姿勢」『図書新聞』第一一九七号、一九七三年一月二七日

共著『人間の世紀 第二巻 歴史としての現代』（堀米庸三編、潮出版社）一九七三

年三月、「歴史哲学の再建」四九～九一頁

小論「人間 死の意識の喪失 「生きる」と「生きがい」の間で（変容する価値意

識(一)）」『公明新聞』一九七三年三月一九日

小論「人間 侵食した世俗化 欲望の本性を正当づける（変容する価値意識(二)）」

『公明新聞』一九七三年三月二三日

小論「人間 差掛かる分岐点 豊かさの神話崩れ混迷（変容する価値意識(三)）」『公

明新聞』一九七三年三月二六日

小論「人間 終末論の世俗性 虚無の淵から新たな創造（変容する価値意識(四)）」

『公明新聞』一九七三年三月三〇日

論文「言語のテキストとコンテキスト 思想史的破壊の覚書・原理論(四)」『人文研

究』第五五号、一九七三年四月、二二～五七頁

小論「筑波大学問題と大学改革の決断（特別寄稿）」『宮陵会報』第一九号、一九七

三年四月一日、一一～二三頁

小論「人間 貧困から貧困へ 「死」こそ世界文化の原点」『公明新聞』一九七三年

四月二日

書評「アダム・シャフの『歴史と真理』」歴史認識にかかわるマルクス理論の在り

方 批判の不毛性 からの脱却」『週刊読書人』第九七九号、一九七三年

五月二八日

論文「価値観の危機 現代における未知の危機として」『理想』第四八一号、一九七

三年六月、一七～二八頁

- 論文「世界史における時代区分の諸問題（一） 比較歴史学の前提」『人文学研究所報』第七号、一九七三年六月、一〇二―一〇三頁
- 短文「日中国交正常化以後に考える」『日中協ニュース』（日中友好協会）第二八号、一九七三年六月一日、一二頁
- 短文「大衆運動の要請に本當にこたえうる党」『公明新聞』一九七三年六月一六日
書評「C・E・メリアム著『政治権力 その構造と技術 上下』 リアルな政治の普遍的理論化」『公明新聞』一九七三年七月一六日
- 書評「田島節夫著『言語と世界』、鈴木孝夫著『ことばと文化』、山内實美夫著『言語学原理』（印象に残った本）」『週刊読書人』一九七三年八月二〇日
書評「山本信編『哲学の基本概念』」『経済往来』一九七三年九月、二三八―二三九頁
- 論文「言語のテキストとコンテクスト 思想史的破壊の覚書・原理論（五）」『人文研究』第五六号、一九七三年九月、一〇三―一〇五頁
- 論文「発展段階説の破壊と創造のために」『歴史と人物』（中央公論社）第二六号、一九七三年一〇月、四二―四五頁
- 小論「早急に政権の座につくことをいそぐべきでない」『公明』一九七三年一月、三六―三七頁
- 論文「言語のテキストとコンテクスト 思想史的破壊の覚書・原理論（六）」『人文研究』第五七号、一九七三年十一月、一〇三―一〇四頁
- 書評「H・アレント著『人間の条件』 公的秩序逆転の意味を問う」『歴史と人物』一九七三年十二月、二〇九―二二二頁
- 論文「言語のテキストとコンテクスト 思想史的破壊の覚書・原理論（七）」『人文研究』第五八号、一九七四年一月、一〇三―一〇五頁
- 論文「歴史とことば」『理想』第四九一号、一九七四年四月、三八―五一頁
- 書評「マルクス主義哲学の新展開 アダム・シャフ著『言語と認識』を読んで」『認識過程における言語の能動的役割』の視角で『週刊読書人』第一〇二八号、一九七四年五月一三日
- 短文「時代の要請に正しく応えうることを期待」『公明新聞』一九七四年六月九日
書評「M・フーコー著『ことばともの』 広まる構造主義の問題性 「近代」をのりこえる「知」の開拓を」『東京大学新聞』一九七四年七月二二日
- 論文「比較歴史学の一視角 ルネサンス問題によせて」『人文学研究所報』第八号、一九七四年八月、一―二四頁
- 書評「M・フーコー著『言葉と物』、R・バルト著『ミシユレ』、L・アルチュセー（印象に残った本）」『週刊読書人』一九七四年八月一九日
- 小論「洋学二百年への視点 “唯一文明” 観の総括を 近代を超克する出発点に」『公明新聞』一九七四年九月七日
- 小論「ミシェル・フーコー 知を探る考古学（現代を動かす人と思想）」『毎日新聞』一九七四年九月一六日

- 論文「国際環境」と言語」、『国際問題』（日本国際問題研究所）第一七五号、一九七四年一〇月、二一～二四頁
- 小論「獣」と「人間」と「神」の間」、『獣』（山本新ゼミナール）第八七号、一九七四年一〇月、一一頁
- 短文「一驚禁じ得ぬ一〇年間の成果（政界浄化）」、『公明新聞』一九七四年一月七日
- 書評「金子武蔵編『人間』 思想上の根本テーマ 現代に立ちむかうべき、導き」の書」、『日本読書新聞』第一七九〇号、一九七四年一月二五日
- 小論「真の革新」とは人類史の転換期をのりこえる営み」、『公明』一九七四年二月、三一～三二頁
- 短文「古き構造を乗り越えよ」、『公明新聞日曜版』一九七四年二月八日
- 書評「大熊信行著『生命再生産の理論 上』 経済学を根源から総括する」、『公明新聞』一九七五年一月六日
- 書評「ジュリアン・フロイン著『人間科学の諸理論』」、『読売新聞』一九七五年二月一七日
- 書評「三宅正樹著『ヒトラー』」、『読売新聞』一九七五年二月一七日
- 短文「地方で直面する問題解決を期待」、『公明新聞』一九七五年三月一六日
- 論文「方法論の問題」、『理想』第五〇二号、一九七五年四月、二二～三三頁
- 論文「世界史における時代区分の諸問題（一） 比較歴史学の前提」、『人文学研究所報』第九号、一九七五年七月、一～二五頁
- 小論「ことば研究の世界（上） 日本語ブーム 世界の中に位置づける試み」、『公明新聞』一九七五年七月三日
- 小論「ことば研究の世界（中） 目的と課題 比較考察で文明論的地平」、『公明新聞』一九七五年七月一〇日
- 小論「ことば研究の世界（下） 日本人の言語風土 西欧接近より普遍性追求へ」、『公明新聞』一九七五年七月一七日
- 書評「市川浩著『精神としての身体』、中村雄二郎著『感性の覚醒』、黒田亘著『経験と言語』（印象に残った本）」、『週刊読書人』一九七五年八月一八日
- 書評「私の書評 武藤光朗著『限界状況としての日本』」、『自由』一九七五年一月、一一三～一一四頁
- 書評「堀米庸三著『歴史と現在』 豊かで透徹した歴史の省察」、『サンケイ新聞』一九七五年一月九日
- 小論「ミシェル・フーコー 知を探る考古学」、『現代を動かす人と思想』（毎日新聞社学芸部編、ぎょうせい）一九七五年二月、一一九～一二二頁
- 書評「山本新編『トインビーのアジア観』 歴史を考える視点を提示」、『公明新聞』一九七五年二月一日
- 書評「坂本賢三著『機械の現象学』」、『現代思想』（青土社）第四卷第三号、一九七六年三月、一三〇～一三四頁

- 小論「新しい哲学の視点をつめると 状況と価値」『神大ゼミ誌』（神奈川大学）第六号、一九七六年三月、四〇八頁
- 書評「安永寿延著『日本における「公」と「私」』 未来的な思考、生き方の造型」『公明新聞』一九七六年三月八日
- 書評「E・レッシング著『トレルチの思想』 キリスト者として危機に直面 エンチクロペデー的な視野において展開」『日本読書新聞』第一八五号、一九七六年四月二二日
- 論文「価値の構図」『哲学』（日本哲学会編、法政大学出版局）第二六号、一九七六年五月、六七〜八二頁（『価値の構図とことば』所収）
- 書評「オイゲン・フィンク著、千田義光訳『遊び 世界の象徴として』』『國學院雑誌』（國學院大學）第七七巻七号、一九七六年七月、五六〜五九頁
- 論文「遊戯の哲学と哲学の遊戯」『古今東西を超えて』理想』第五一八号、一九七六年七月、四三〜六九頁
- 書評「レミ・C・クワント著『メルロー＝ポンティの現象学的哲学』 「意味の哲学」として ヨーロッパの哲学的思考の根の深さ」『週刊読書人』第一四二号、一九七六年八月二日
- 書評「大森荘藏著『物と心』、坂部恵著『理性の不安』、P・バグビー著『文化と歴史』（上半期の収穫）』『週刊読書人』一九七六年八月一六日
- 論文「民族の自由について 国際政治哲学的一考察」『新人評論』（新人評論編集部）一九七六年九月、二六〜三三頁
- 論文「政治家とモラル 未来に結ばれる可能性」『公明』第一七四号、一九七六年九月、七七〜八七頁
- 書評「坂部恵著『理性の不安』 伝統的カント学への警鐘」『東京大学新聞』第二一九六号、一九七六年九月一三日
- 短文「アンケート 今後の国際関係と日本」『国際問題』第二〇〇号、一九七六年一月
- 論文「価値事象への階梯 哲学思考の組替え」『國學院雑誌』第七七巻第一号、一九七六年一月、二二九〜二五三頁（『価値の構図とことば』所収）
- 短文「責任ある「革新」としての公明に期待」『公明新聞PR版』一九七六年一月八日
- 書評「閲覧室 緊張と魅力の遺言 堀米庸三著『わが心の歴史』』『第三文明』一九七六年二月、二二二〜二二三頁
- 書評「高島通敏著『自由とポリテイク』 民衆の主体性構築に肉迫」『公明新聞』一九七六年二月二七日
- 書評「筑紫哲也著『総理大臣の犯罪』 政治の流れを変える一助」『公明』第一七九号、一九七七年一月、一七四〜一七五頁
- 論文「ことごとくものゝ言葉と、ものゝことごとく」『國學院雑誌』第七八巻第一〇号、一九七七年一月、一一〜二二頁

- 小論「時事評論 七十年代雑感 非中心化 をめぐって 世界史の大きな転換を垣間見せる分岐点」、『日中協ニューズ』第六六号、一九七七年三月一日、一六七頁
- 書評「モーリス・バレス著『自我礼拝』のフィリップ」 自我の確立と超克訴える
 (青春の出会い 手にした一冊から)、『公明新聞』一九七七年五月二四日
- 論文「自己革新こそ変革のテコ 日本を進路を切りひらく国民の役割」、『公明』第一八四号、一九七七年六月、六八～七五頁
- 書評「杉原泰雄著『国民代表の政治責任』 責任追及制度の基本を説く」、『公明新聞』一九七七年八月一日
- 書評「講座・現代の哲学」、中村雄二郎著『哲学の現在』、佐伯守著『体験と精神』
 (印象に残った本)、『週刊読書人』一九七七年八月一五日
- 小論「発心の記 決断の意味」、『第三文明』一九七七年十一月
- 論文「偶然と必然とのたわむれ メタ哲学的思考へ」、『理想』第五三七号、一九七八年二月、五〇～七九頁
- 書評「キー・パースン論の地平 市井三郎著『歴史を創るもの』」、『第三文明』一九七八年三月、一三〇～一三二頁
- 論文「比較思想の地平 その学的劣位から優位へ」、『理想』第五三九号、一九七八年四月、五二～七〇頁
- 短文「哲学 に対する先入見を括弧にいれること」、『若木が丘だより』(國學院大學)一九七八年四月五日
- 短文「人生の土台をがちり築く」、『若木が丘だより』一九七八年四月五日
- 小論「山本先生との“出会い”をめぐって」、『アジアの抵抗』(山本新編、神奈川大學山本ゼミナール)一九七八年五月一五日、二四～二九頁
- 書評「市川浩・坂部恵他編『人称的世界』、オースティン著『言語と行為』、市井三郎著『歴史を創るもの』(印象に残った本)』、『週刊読書人』一九七八年八月二二日
- 小論「トインビーからの自立」、『山本新とトインビー』(『トインビー』の出版を祝う会)一九七八年九月三〇日、二八頁
- 書評「山本新『トインビー』 トインビーとの格闘の記録」、『現代とトインビー』第四〇号、一九七八年一〇月、二〇～二二頁
- 書評「伊東光晴他編『戦後思想の潮流』 極端へ走る評価へのディレンマ」、『公明新聞』一九七八年十一月二〇日
- 座談会「言語の根本問題 言語学と哲学との対話のこころみ(川本茂雄、佐藤信夫、竹内芳郎、中村雄二郎。司会神川正彦)」、『國學院雑誌』第八〇巻第一号、一九七九年一月、一四～四一頁
- 論文「教育を論ずる私の気持 教育の素朴リアリズムをこえて」、『理想』第五四八号、一九七九年一月、一一四～一二六頁
- 論文「行為と事象」、『國學院雑誌』第八〇巻第二号、一九七九年二月、一～一九頁

- 書評「W・H・ウォルシュ著・神山四郎訳『歴史哲学』」「比較文明」(刀水書房)第一号、一九七九年四月、五頁
- 短文「自民政権のよどみを切り開く一翼に」『公明新聞』一九七九年四月七日
- 書評「歴史へむかって」書評 W・ウォルシュノ神山四郎訳『歴史哲学』、『創文』(創文社)一八五号、一九七九年五月、二〇〇―二三頁
- 書評「本色川大吉対談集『文明横義』 日本文化へのあらたなる希望」『公明新聞』一九七九年六月四日
- 書評「中村雄二郎著『共通感覚論』、湯浅慎一著『愛と価値の現象』、W・ウォルシュ『歴史哲学』、『歴史化の動向』(印象に残った本)、『週刊読書人』一九七九年八月一三日
- 短文「目のさめるような革新の実践果たせ」『公明新聞』一九七九年八月二二日
- 書評「日本政治学会編『五五年体制の形成と崩壊』 新しい政治の原理を問う」『公明』一九七九年二月、一七二―一七三頁
- 小論「日本哲学の現状についての私見(アンケート 戦後の日本哲学の収穫)」『理想』第五六〇号、一九八〇年一月、一三七―一三八頁
- 論文「価値と事象 その基本的構図」『國學院雑誌』第八一卷第一号、一九八〇年一月、一―一八頁
- 論文「知の一般理論としての歴史哲学 その前提的視座」『思想』第六六七号、一九八〇年一月、四〇―五六頁
- 書評「加藤周一・鶴見俊輔・日高六郎・高島通敏『転形期 八〇年代へ』 日本人の生の一つの集約」『公明』一九八〇年六月、一七二―一七三頁
- 書評「山本信・井上忠他著『心身の問題』、井上忠『哲学の現場』、山崎庸佑『現象学と歴史の基礎論』(印象に残った本)」『週刊読書人』一九八〇年八月一日
- 書評「山崎庸佑著『現象学と歴史の基礎論』 超越論的なフアイノメノンの開示 ドイツ哲学伝統の 原点 に依拠した説明」『日本読書新聞』一九八〇年八月一八日
- 短文「同窓生並びに在校生の皆様」『鎌倉学園PTA会報』第二〇号、一九八〇年一月一日
- 小論「偶然性の九鬼哲学とわたくし」『九鬼周造全集月報』(岩波書店)第一号、一九八〇年一月、一―三頁
- 論文「歴史哲学とニーチェ」『ニーチェ物語 その深淵と多面的世界』(渡辺二郎・西尾幹二編、有斐閣)一九八〇年十二月、二二九―二三三頁
- 論文「三〇年代と八〇年代と 半世紀の差異の測定」『公明』第二二八号、一九八一年一月、五五―六三頁
- 論文「価値のことは その基礎地平」『國學院雑誌』第八二卷第二号、一九八一年二月、一―一八頁 (『価値の構図』(ことば) 所収)
- 共著『比較文明論の試み』(堤彪・吉澤五郎編、論創社)一九八一年四月、「比較文

明論の使命」三五～五三頁

論文「価値 への探求を深めること 科学と文明」『人間』（神奈川大学神川ゼミナール編集部）復刊号、一九八一年五月、一～六頁

書評「中村雄二郎・山口昌男著『知の旅への誘い』、浜田義文著『カント倫理学の成立』、大森莊藏著『流れとよどみ』（印象に残った本）」『週刊読書人』一九八一年八月一〇日

短文「アンケート 核積載艦の寄港・通過を認むべきか」『外交時報』第一一八七号、一九八一年九月

論文「自助・自立」主義の陥穽 福祉の低水準を隠す美名に使われる恐れが」『公明』第二三八号、一九八一年一月、三二～四〇頁

書評「アイザイア・バーリン著『ヴィーコとヘルダー』 あらたな知の体系性を求め 独創的で混沌とした二人の思想を腑分け」『週刊読書人』一九八一年一月二日

論文「のようなもの シュミラクル 幻想 価値論的要請」『人間』第八号、一九八二年、一～八頁

論文「構文論と意味論との基礎としての言為論 価値のことばのオリエンテイション」『國學院雑誌』第八三巻第一号、一九八二年一月、一～一九頁（『価値の構図とことば』所収）

小論「山本さんと私 一つの山本新論」『現代とトインビー』第五〇号、一九八二年三月、三八～四二頁

小論「山本新の知的開拓（一）山本新と「バー」」『山本新研究』（山本新研究会）創刊号、一九八二年四月、一～四頁

短文「反核・軍縮に関するアンケート」『外交時報』第一一九四号、一九八二年五月二日

論文「文化・言語・想像力・歴史 竹内芳郎著『文化の理論のために』をめぐって」『國學院雑誌』第八三巻第六号、一九八二年六月、一～一七頁

論文「平和の哲学的基礎付けのために」『理想』第五九一号、一九八二年八月、一四～一九頁

書評「竹内芳郎著『文化の理論のために』、大森莊藏著『新視覚新論』、鈴木亨著『生きる根拠を求めて』（印象に残った本）」『週刊読書人』一九八二年八月九日

書評「書架紀行 岩崎武雄著作集 有限者たる人間に徹する哲学」『図書新聞』第三一七号、一九八二年九月四日

小論「山本新研究とは何か」『山本新研究』第二号、一九八二年一〇月、一頁

書評「小林多加士著『中国への問い』』『現代とトインビー』第五二号、一九八二年一月、三〇～三二頁

書評「『軍縮の政治学』（坂本義和著） 誰が軍拡・政治構造を変えるか」『公明』第二五一号、一九八二年二月、一六八～一七〇頁

書評「井門富二夫・芳賀徹編集『比較文化叢書』』『比較文明』第五号、一九八二年

一二月、四、五頁

論文「意味・性・暴力 価値論的問い」『人間』第九号、一九八三年、一〇七頁

小論「危険な首相の歴史認識 「しかしの論理」で戦前を志向」『公明』一九八三年一月三十一日、一頁

論文「価値のことばの総体性 〆事象としての価値〰と〆構造としての価値〰」『國學院雑誌』第八四卷第二号、一九八三年二月、一〇一頁（『価値の構図とことば』所収）

小論「なにごとも根源から」『國學院大學父兄会会報』第一三三号、一九八三年二月二〇日、三一頁

書評「M・メルロ＝ポンティ著『意味と無意味』 四〇年代の哲学的な姿勢 作品、思想、政治の三局面にわたり論じる」『週刊読書人』第一四七三号、一九八三年三月一四日

小論「ことば・社会・社会諸科学」『新版ことばの哲学』（坂本百大編、北樹出版）一九八三年四月

書評「歴史主義の批判と擁護 ヴェーヌ『差異の目録』と関雅美『歴史主義の擁護』にふれて 両者の間の深いかかわりをとらえること」『週刊読書人』第一四八一号、一九八三年五月一六日

短文「ジエネラリストは哲学的教養で」『未来』（國學院大學入試事務課）五九年度、一九八三年六月

小論「比較文明学会設立趣意書（案）」（「ピラ」学会設立発起人、一九八三年七月論文「歴史と進化」『理想』第六〇三号、一九八三年八月、一一〇～一二五頁

書評「井筒俊彦著『意識と本質』、関雅美著『歴史主義の擁護』、菅野盾樹著『我、ものに遭つ』（印象に残った本）』『週刊読書人』一九八三年八月八日

小論「教授エッセイ 最近思いつづけていること」『国学院大学新聞』一九八三年一〇月一〇日

短文「力依存の政治を排除せよ」『公明新聞』一九八三年一月一日
小論「社会を毒す「田中政治」 その病理的影響（中） 目に余る多数の専横」『公明新聞』一九八三年一月一日

書評「秀村欣二ノ吉沢五郎編『地球文明への視座 トインビー現代論集』』『経済往来』一九八四年一月

書評「福田歓一・河合秀和編『バーリン選集』 バーリンの論考の魅力 多元的価値論の考え方」『週刊読書人』第一五一四号、一九八四年一月九日

論文「自然における価値の認識 自然の〆価値〰化」『國學院雑誌』第八五卷第二号、一九八四年二月、一〇二頁

書評「A・クローバー著『様式と文明』 文明の比較研究の試み 「様式」という鍵概念を嚮導概念として」『週刊読書人』一九八四年二月二七日

編著『哲学 問いへのアプローチ』（神川正彦編、勁草書房）一九八四年三月、「まえがき」 i、iii、「序章 生活世界からの出発」一〇三五頁

短文「一思想家にとらわれることの価値」『現代とトインビー』第五号、一九八四年三月、二五頁

書評「『死と歴史』西欧中世から現代へ」P・アリエス著、伊藤晃・成瀬駒男訳『國學院雜誌』第八五卷第四号、一九八四年四月、一〇四～一一五頁

小論「A・クローバー『様式と文明』について」『山本新研究』（山本新研究会）第五号、一九八四年四月五日、四～五頁

短文「いまなぜ比較文明学か」『比較文明学会会報』第一号、一九八四年五月、一頁
小論「信太さんと私」『信太正三研究』（柴田隆行）第三号、一九八四年五月、一一頁

小論「福田正夫と 民衆詩」『國學院雜誌』第八五卷第五号、一九八四年五月、三一～三三頁

書評「野家啓一編『哲学の迷路』、梅棹忠夫・石毛直道編『近代日本の文明学』、ジヤン・マル・ドムナク著『世紀末を越える思想』、R・ジラール著『地下室の批評家』（印象に残った本）」『週刊読書人』一九八四年八月二三日

短文「政治革新へ連合時代の中核たれ」『公明新聞』一九八四年一月一六日

小論「哲学と比較文明（学叢閑歩九六）」『國學院大學學報』第三〇〇号、一九八四年二月九日

小論「新たな文明学への道 比較文明学会の一年 地球的視座から民衆生活を」『聖教新聞』一九八四年二月八日

小論「文化接触を考えるまえに 文明論の立場から」『Maydan（中東フォーラム）』（國際大学中東研究所）第六号、一九八五年、八～九頁

論文「生活世界と科学世界 この問いの基点の測定」『國學院雜誌』第八六卷第二号、一九八五年二月、六八～八八頁

小論「タテ社会構造の日本語 國際化のネックに 「閉鎖性」の認識が必要」『世界日報』（世界日報社）一九八五年五月三日

小論「福祉その新しい質 「国家単位の自足」ではダメ 地球規模での保障が不可欠」『朝日新聞 夕刊』一九八五年六月三日

短文「人生の出会いの偶然から」『阿字』（阿字の会）第四〇号、一九八五年七月一日

書評「阿部謹也『歴史と叙述』 従来の歴史研究方法への厳しい反省」『週刊ポスト』（小学館）一九八五年七月二日

書評「『新岩波講座哲学』菅野盾樹著『メタファアの記号論』、F・ブローデル著『日常性の構造』（印象に残った本）」『週刊読書人』一九八五年八月二二日

書評「謝世輝著『第三の世界史』、現代とトインビー』第五九号、一九八五年九月
シンポジウム「比較文明の課題（司会 神川正彦）」『比較文明』第一号、一九八五年一月、八四～八五頁

論文「先駆的開拓から未来的展望へ 比較文明学と山本新」『周辺文明論 欧化と土着』（山本新著、神川正彦・吉沢五郎編、刀水書房）一九八五年一月、iii～

xv頁 (『比較文明の方法』所収)

論文「知の組替えの試みと比較文明」『比較文明』(刀水書房)第一号、一九八五年一月、六九〜八一頁 (『比較文明の方法』所収)

小論「地球文明への架橋」「比較文明」の刊行に際して 平和共存の在り方へ全体的論議を」『聖教新聞』一九八五年二月二二日

論文「政治」と「文化」のかかわり 文明の変革と創造のなかで」『公明』第二八八号、一九八六年一月、四六〜五五頁

短文「米ソ首脳会談に関するアンケート」『国際問題研究』第六号、一九八六年一月
論文「新しい福祉観の思想的展開 福祉の思想の活性化のために」『ジュリスト増刊総合特集 転換期の福祉問題』(有斐閣)第四号、一九八六年一月、

三八〜四三頁

対談「近代化と文明論 連続対談シリーズ 内山秀夫・神川正彦」『航空と文化』(日本航空協会)第一九号、一九八六年一月、二〇〇〜二二二頁

論文「知覚問題で捨象されるもの」『逆還元』という方法へ」『國學院雑誌』第八七巻第二号、一九八六年二月、一〜二〇頁 (『価値の構図とことば』所収)

小論「『哲学涓滴』をめぐる随想」『滴』(國學院大學広報課)第二号、一九八六年三月、一八〜一九頁

論文「哲学的思索のへはじめ」『直接与えられたもの』『國學院大學紀要』第二四号、一九八六年三月、一〜二八頁 (『価値の構図とことば』所収)

論文「歴史叙述と歴史認識 その基礎地平」『新・岩波講座哲学 第一巻』(岩波書店)一九八六年四月、二四四〜二六八頁 (『価値の構図とことば』所収)

論文「福祉、その新しい質を考える」『社会福祉研究』(鉄道弘済会)第三八号、一九八六年四月、一四〜一九頁

短文「平和と真理 その 視点媒介性」『現代とトインビー』第六二号、一九八六年七月、一頁

書評「坂部恵著『和辻哲郎』、谷川渥著『形象と時間』、菅野盾樹著『はじめ』 学級 の人間学』(印象に残った本)」『週刊読書人』一九八六年八月二二日

論文「福祉世界の形成にむけて 「福祉学」と「平和学」の合流」『季刊社会保障研究』(学会誌刊行センター)第二二巻第二号、一九八六年九月、九七〜一〇六頁

論文「『日本文明の解明』のための方法論的基礎」『比較文明』第二号、一九八六年十一月、六一〜七三頁 (『比較文明の方法』所収)

書評「佐藤信夫著『言述のすがた わざとらしさ』の修辞学」『国文学』(学燈社)第三二巻第一三三号、一九八六年十一月、一六一頁

書評「湯浅起男著『文明の歴史人類学』」『比較文明』第二号、一九八六年十一月、二七〇〜二七三頁

短文「アーガマへのごとば」『月刊アーガマ』(阿含宗総本山出版部)第七三号、一九八六年十一月

- 論文「**生の事実**と**現実構造**」生活世界の底へ』『國學院雜誌』第八八卷第二号、一九八七年二月、一〇二頁（『価値の構図とことば』所収）
- 書評「S・プロイアー著『規律の進化』」神奈川大学評論』第一号、一九八七年二月、八八〜八九頁
- 論文「民俗再考 多元的世界への視点」坪井洋文』『國學院雜誌』第八八卷第四号、一九八七年四月、六九〜八〇頁
- 小論「文明と健康を考える 「研究会」の設立記念会シンポから」『毎日新聞』一九八七年九月二五日
- 論文「宗教文明の基本構造 文明における基本要因の視点から」『比較文明』第三号、一九八七年一〇月、二二〜三四頁（『比較文明の方法』所収）
- 書評「新しい可能性（第一回福田正夫賞選評）」『焰』第九号、一九八七年一月
- 論文「問題提起 文明からのアプローチ」『健康管理』（保健文化社）第四〇三号、一九八八年一月、六〜一二頁
- 共著『**福祉社会の未来構造論**』（岡野加穂留編、人間の科学社）一九八八年一月、「福祉」観念の再検討 福祉世界の形成にむけて」一〜六八頁
- 論文「**価値の土壌**と**ふかさ**」『逆還元』の第二の道』『國學院雜誌』第八九卷第二号、一九八八年二月、一〜二二頁（『価値の構図とことば』所収）
- 対談「**知の組替え**を考える 神川正彦・中村雄二郎」『滴』第五号、一九八八年四月、二〜二二頁
- 短文「**哲学を学び、生**を知ろう」『若木が丘だより』一九八八年四月五日
- 小論「**比較文明学の展開 五年の活動をふりかえって 人類の“折り返し点”の創造へ**」『聖教新聞』一九八八年八月一三日
- 小論「『人文研究』一〇〇集と人文学会三五周年にあたって」『人文研究』第一〇〇号、一九八八年九月、七〜九頁
- 書評「安田喜憲著『世界史のなかの縄文文化』」『比較文明』第四号、一九八八年一月、一九二〜一九五頁
- 書評「賞のイメージから（第二回福田正夫賞選評）」『焰』第一三号、一九八八年一月、一九八八年一月、二二〜四八頁
- 論文「**比較文明とは何か 方法を通して**」『文明』（東海大学文明研究所）第五四号、一九八八年一月、二二〜四八頁
- 小論「**昭和史** 論の視角 求められる独善性からの脱却 世界史的な文明史観で捉え直せ」『公明新聞』一九八八年一月一日
- 小論「**死の回歸と文明史の折返し点（シンポジウム 死生観と文明）**」『現代とトインビー』第六九号、一九八八年二月、三〜七頁
- 小論「**文明と健康**」『月刊健康』（コクミン健康クラブ本部）一九八八年二月、四八頁
- 小論「**時に百年前を想起する**」『國學院大學哲学学会会報』第三号、一九八九年、一〇

- 論文「価値のひろさ」 分離から統一へ』『國學院雜誌』第九〇卷第二号、一九八九年二月、一〇二頁（『価値の構図とことば』所収）
- 書評「菅野他著『東の科学 西の科学』」 知の問い直しの試み 注目に価する共同研究の最初の成果』『週刊読書人』一九八九年三月六日
- 共著『人間と文明のゆくえ トインビー生誕一〇〇年記念論集』（秀村欣二監修、吉澤五郎・川窪啓資編、日本評論社）一九八九年四月、「トインビー史学の歴史的境位 今なゼトインビーか」七八〜九一頁（『比較文明の方法』所収）
- 小論「遺稿をめぐって」『近代国際政治史』（神川彦松著、原書房）一九八九年四月、二八三〜二八七頁
- 小論「比較文明の方法 権力と歴史の問題を手掛かりに」『比較文明学会会報』第一号、一九八九年五月、二頁
- 小論「環太平洋の方向性を問う フォーラムに出席し」『現代とトインビー』第七一号、一九八九年七月、一七頁
- 小論「平成元年の終戦記念日 「転換」の正しい意味をどう実らせ得るのか？」『公明新聞』一九八九年八月一五日
- 小論「山本新と「山本新研究」』『山本新研究』第一六号、一九八九年八月一五日、二二〜三頁
- 書評「謝世輝著『世界史の変革』』『比較文明』第五号、一九八九年一月、二〇二〜二〇五頁
- 書評「本賞にふさわしい（第三回福田正夫賞選評）」『焰』第一七号、一九八九年一月
- 小論「高齢化社会と文明 人生の折り返しと人類の折り返し」『現代とトインビー』第七二号、一九八九年二月、二二〜二三頁
- 書評「梅棹忠夫著作集』第五卷 比較文明研究 知の組み替えのために 一貫した骨格を印象付ける」『週刊読書人』一九八九年二月一日
- 小論「米ソ首脳会談に関するアンケート回答集」『国際問題研究』第六号、一九八九年六月一日、二五頁
- 論文「価値の哲学的文法 価値説批判」『國學院雜誌』第九一卷第二号、一九九〇年二月、一〜二〇頁（『価値の構図とことば』所収）
- 論文「価値の図式とその解明」『國學院大學紀要』第二八号、一九九〇年三月、一〜二八頁（『価値の構図とことば』所収）
- 短文「自分自身で考える」『若木が丘だより』一九九〇年四月五日
- 書評「柴田秀『自己と自由』」 哲学的営為の根の一つ われわれは本当に自覚的にならねばならぬ』『図書新聞』第二〇〇八号、一九九〇年六月九日
- 短文「公明は民主的な立場でリーダーシップを」『公明新聞』一九九〇年七月三日
- 書評「中村雄二郎著『哲学の水脈』」 現代の挑戦に対する画期的な書』『産経新聞夕刊』一九九〇年八月七日
- 小論「最近の世界情勢と比較文明学の「誕生」」『若木が丘だより』一九九〇年一〇

- 月一八日、六頁
- 書評「一行のイメージ」(第四回福田正夫賞選評)、『焰』第二号、一九九〇年一月
- 論文「方法の必要性 問題設定と解明のために」、『比較文明』第六号、一九九〇年一月、一一〜二四頁 (『比較文明の方法』所収)
- 書評「阿閉吉男著『ジンメルの世界』」、『比較文明』第六号、一九九〇年一月、九七〜二〇〇頁
- 書評「中田光雄著『文化・文明 意味と構造』 注目すべき大作 知の組み替えのための論争の書」、『週刊読書人』第一八六二号、一九九〇年二月一日
- 論文「価値論の全体的構想と言語批判の方法」、『國學院雑誌』第九二卷第二号、一九九一年二月、一〜二〇頁 (『価値の構図とことば』所収)
- 小論「第八回大会レポート」、『比較文明学会会報』第五号、一九九一年五月、四頁
- 小論「比較文明学の思想と実践課題」、『現代とトインビー』第七七号、一九九一年七月、八〜九頁
- 論文「価値探究の論理 存在の哲学から価値の哲学へ」、『理想』第六四七号、一九九一年七月、二五〜三七頁
- シンポジウム「文明と国家(司会 神川正彦)」、『比較文明』第七号、一九九一年一月、一三三〜一三四頁
- 書評「脱線気味の選評(第五回福田正夫賞選評)」、『焰』第二五号、一九九一年一月
- 論文「言為論的生活世界の定礎」、『國學院雑誌』第九二卷第一号、一九九一年一月、二七七〜二九六頁 (『価値の構図とことば』所収)
- 論文「比較文明学における国家の問題 科学批判を通して」、『比較文明』第七号、一九九一年一月、二二〜二三頁 (『比較文明の方法』所収)
- 小論「生活協同組合運動の理念と現実をめぐって」、『神奈川大学生活協同組合二〇周年記念パンフレット』一九九一年一月二日
- ピラ「国立アジア文明博物館(仮称)設立支援声明」第九回比較文明学会大会配布、一九九一年二月一日
- 書評「齋藤博著『文明 を営む人間』 地道な戦術に従って 文明学構築のための研究に取り組む」、『週刊読書人』第一九二二号、一九九一年二月九日
- 短文「第一〇〇期卒業論文講評」、『國學院大學哲学会会報』第八号、一九九二年、一五頁
- 論文「言為論的生活世界の言語構造的分解へ」、『國學院雑誌』第九三卷第二号、一九九二年二月、一〜二〇頁 (『価値の構図とことば』所収)
- 小論「トランス・ナショナルからの発想」、『現代とトインビー』第七九号、一九九二年三月、一八〜一九頁
- 書評「柴田隆行著『横超の倫理と遊戯の哲学 信太哲学研究』を読む」、『社会思想史

- の窓』(社会思想史の窓刊行会) 第九五号、一九九二年四月、一〜五頁
- 論文「『民衆詩』の定位 日本近代詩史の見直しのために(第一回)」、『焰』第二七号、一九九二年五月、八六〜八八頁
- 小論「第一〇〇期卒業論文講評」、『國學院大學哲学学会報』第八号、一九九二年七月、一五〜一六頁
- 論文「『民衆詩』の定位 日本近代詩史の見直しのために(第二回)」、『焰』第二八号、一九九二年八月、九四〜九六頁
- 小論「民衆詩と日本近代詩史をめぐって 昭和が終わったいま冷静に大正を見直すこと」、『公明新聞』一九九二年八月一日
- 共著『文明の転換と東アジア トインビー生誕一〇〇年アジア国際フォーラム』(吉沢五郎・川窪啓資編、藤原書店) 一九九二年九月、「東アジアの文明論的パースペクティヴと日本」、『比較文明学の思想と実践課題』二二〜四七、一八〇〜一八三頁 (『比較文明の方法』所収)
- 小論「比較文明と『二二世紀』 緊急な、多における」への転換」、『聖教新聞』一九九二年九月一五日
- 論文「現代文明と哲学 理論構築の地平から」、『哲学雑誌』第一〇七巻第七七九号、一九九二年一〇月、八四〜一〇一頁 (『比較文明の方法』所収)
- 小論「文明・文化の変動論の探究 比較文明の理論構成的次元から」、『第一〇回比較文明学会大会』一九九二年一月二八日
- 論文「『民衆詩』の定位 日本近代詩史の見直しのために(第三回)」、『焰』第二九号、一九九二年一二月、一一九〜一二二頁
- 論文「言為論的生活世界の言語構造的分解 P・リクール「時間と物語」の根本的批判を通して」、『國學院雑誌』第九四巻第二号、一九九三年二月、一〜二〇頁 (『価値の構図とことば』所収)
- 小論「二二世紀への問題探究」、『中村雄二郎著作集 制度論 月報』(岩波書店) 一九九三年二月八日、三〜六頁
- 論文「『民衆詩』の定位 日本近代詩史の見直しのために(第四回)」、『焰』第三〇号、一九九三年三月、一八六〜一八八頁
- 小論「比較文明的パースペクティヴから見直される東アジア」、『現代とトインビー』第八二号、一九九三年三月、二〜五頁
- 短文「いまの不安な気持大切に」、『若木が丘だより』一九九三年四月五日
- 論文「『民衆詩』の定位 日本近代詩史の見直しのために(最終回)」、『焰』第三一号、一九九三年六月、八六〜八八頁
- 小論「和」の倫理思想の二面性をめぐって 構造的汚職体質と人間開発指標(HD I) 世界第一位の日本」、『公明新聞』一九九三年六月二二日
- 講演「比較文明学の現代的課題」、『第一一回比較文明学会大会国際シンポジウム講演要旨』一九九三年一〇月二〇日、一七頁
- 書評「伊東俊太郎著『十二世紀ルネサンス 西欧世界へのアラビア文明の影響』」、『比

『比較文明』第九号、一九九三年一月、一七三―一七六頁

小論「二十一世紀への文明変動と文明的世界システム（シンポジウム二十一世紀への文明変動）」、『比較文明』第九号、一九九三年一月、三六―四〇頁（『比較文明の方法』所収）

書評「寸評（第七回福田正夫賞）」、『焰』第三号、一九九四年一月

座談会「文明と哲学 比較文明学と哲学との対話のこころみ（浦野起央、黒田壽郎、中野達、東千尋、宮元啓一。司会神川正彦）」、『國學院雑誌』第九五巻第一号、一九九四年一月、一四―四六頁

論文「特種価値言語の問題 神、法、善、規範、義務など」、『國學院雑誌』第九五巻第二号、一九九四年二月、一―二二頁（『価値の構図とことば』所収）

短文「二一世紀を生きる為」、『若木が丘だより』一九九四年四月五日

小論「政治思想史からみた「終戦記念日」 悲しむべき現実の淵源を見据えよ」、『公明新聞』一九九四年八月一日

小論「色眼鏡の話 文明の衝突説をめぐって」、『比較文明学会会報』第二号、一九九四年九月一日

書評「選評やゝ多弁（第八回福田正夫賞）」、『焰』第三六号、一九九四年十二月

小論「地球世界の間人環境 比較文明的視野への転換を」、『産経新聞夕刊』一九九四年十二月三日

小論「第一〇三期卒業論文講評」、『國學院大學哲学学会会報』第一三号、一九九五年一五―一六頁

論文「比較文明学の現代的課題 二一世紀への展望のもとに」、『比較文明』第一〇号、一九九五年一月、八―二〇頁（『比較文明の方法』所収）

小論「神川正彦 価値哲学 敗戦で全身に突き刺さったテーマ（哲学者二五人の「自画像」）」、『アエラムック』（朝日新聞社）第六号、一九九五年二月、二〇―二二頁

小論「レ・ボン・サン・ヴォーン！ 佐藤さんとの果しえぬ課題」、『Walpuris』（國學院大學外国語研究室）第九五号、一九九五年二月、四―六頁

論文「特種価値言語の問題 観念世界の動態と場の倫理」、『國學院雑誌』第九六巻第二号、一九九五年二月、一―二二頁（『価値の構図とことば』所収）

座談会「文明学の展望 渡瀬信之・松本亮三・齋藤博・神川正彦」、『望星』（東海教育研究所）第三号、一九九五年三月、一四―二三頁

座談会「山本新・文明学」の原点を求めて（出席者 神川正彦・秀村欣二・吉澤五郎）、『現代とトインビー』第八九号、一九九五年九月、二―一四頁

単著『比較文明の方法 新しい知のパラダイムを求めて』刀水書房、一九九五年一月、全二七五頁

書評「『梅棹忠夫著作集』全二二巻別巻一」、『比較文明』第一一号、一九九六年一月、一六八―一七一頁

書評「寸評（第九回福田正夫賞）」、『焰』第四〇号、一九九六年二月

論文「価値のことばの階層性 言説主体と場の価値論的相関性」『國學院雜誌』第九卷第二号、一九九六年二月、一〇二頁（『価値の構図とことば』所収）
論文「比較文明の方法 その系譜学的省察」『比較文明研究』（麗澤大学比較文明研究センター）第一号、一九九六年三月、三三〇―三五三頁（『比較文明文化への道』所収）

短文「葉書評・封書評 泉谷栄「短歌集消息不明」を読む」『詩と評論 澁林』（澁林書房）第七一号、一九九六年四月一五〇頁

小論「比較文明の方法 その系譜学的省察（比文研セミナー要旨）」『比文研ニューズレター』（麗澤大学比較文明研究センター）第二号、一九九六年五月、三三頁

小論「現代文明と生活世界への模索」『鈴木亨著作集月報』（三一書房）一九九六年五月一五日、一〇二頁

小論「コラム 比較文明学と環境問題」『講座文明と環境 第一五巻「新たな文明の創造」』（梅原猛編、朝倉書店）一九九六年九月、一三二―一三七頁（『比較文明文化への道』所収）

論文「文明の転換と価値の転換 価値哲学の立場から」『比較文明』第二号、一九九六年一月、六〇―一八頁

書評「第一〇回記念にあたって（第一〇回福田正夫賞）」『焰』第四三号、一九九六年十二月

短文「追悼文（山本和夫追悼特集）」『焰』第四三号、一九九六年十二月

論文「ありのままの言説主体の定位 価値のことばの階層性に基づいて」『國學院雜誌』第九八巻第二号、一九九七年二月、一〇二頁（『価値の構図とことば』所収）

論文「比較文明的遠近法」にうつしだされる「日本の言説」二つの開国を中心に」『比較文明研究』第二号、一九九七年三月、一一―三四頁

共著『比較文明の社会学 新しい知の枠組』（米山俊道・吉澤五郎編、放送大学教育振興会）一九九七年三月、「諸文明の時代」一五〇―一五九頁（『比較文明文化への道』所収）

小論「若い時の重さを知る」『情念の人 田中直吉先生 その学問と生涯』（田中直吉先生追悼文集刊行委員会）一九九七年三月二五日、六四―六八頁

共著『比較文学を学ぶ人のために』（伊東俊太郎編、世界思想社）一九九七年六月、「比較文学の方法」二五―四二頁（『比較文明の方法』所収）

書評「第一一回選考の「回想」（第一一回福田正夫賞）」『焰』第四七号、一九九七年十二月

書評「西川潤編『社会開発 経済成長から人間中心型発展へ』」『比較文明』第一三三号、一九九八年一月、一七四―一七五頁

論文「価値のことばの総動的動態性」『國學院雜誌』第九九巻第二号、一九九八年二月、一〇二頁（『価値の構図とことば』所収）

論文「『周辺文明』の変動論的考察 序説」『比較文明研究』第三号、一九九八年三月、一〇一―一九頁（『比較文明文化への道』所収）

短文「生活、文化、経済、民族 あらゆることを関連させて哲学する」一九九九年 度入学ガイド（國學院大學）一九九八年三月

小論「価値哲学」『岩波哲学・思想事典』（岩波書店）一九九八年三月、二四四―二四五頁

論文「価値のことばの弁証法的構造 日常性／非日常性、正常性／異常性、現実性／超現実性」『國學院大學紀要』第三六号、一九九八年三月、二五〇―二五二頁（『価値の構図とことば』所収）

短文「表現することから」『若木が丘だより』一九九八年四月五日

論文「S・P・ハンティントン著『文明の衝突と世界秩序の再構成』に寄せて」『比較文明』第四号、一九九八年一月、一七九―一八四頁

書評「第一二回目の心状（第一二回福田正夫賞）」『焰』第五〇号、一九九八年二月、月

編著『比較文明学の理論と方法（講座比較文明、一）』（神川正彦他編、朝倉書店）一

九九九年二月、「総論 比較文明学という学的パラダイムの構築のために」一―一七頁、「第一章 比較文明学の学的基本性格 知の組み換えのために」一七六―一九一頁（『比較文明文化への道』所収）

論文「構図構成と構想力の立場 価値の哲学の展開のために」『國學院雑誌』第一〇〇巻第二号、一九九九年二月、一―二二頁（『価値の構図とことば』所収）

論文「比較文明学の理論的課題」『比較文明研究』第四号、一九九九年三月、九―一四頁（『比較文明文化への道』所収）

書評「選考書翰（第一三回福田正夫賞）」『焰』第五三号、一九九九年一月

論文「比較文明的パースペクティヴにうつしだされる文明と宗教 宗教的多元主義の立場」『比較文明』第五号、一九九九年一月、六―一八頁（『比較文明文化への道』所収）

小論「國學院において四分の一世紀の時をすごした終わりに」『國學院大學哲学学会報』第一九号、二〇〇〇年、一―三頁

単著『価値の構図とことば 価値哲学基礎論』勁草書房、二〇〇〇年一月、全五〇九頁

論文「『周辺文明』の変動論的考察 日本文明の場合 脱周辺化 の二つの歴史的段階を中心に」『比較文明研究』第五号、二〇〇〇年三月、一―二二頁（『比較文明文化への道』所収）

書評「吉澤五郎著『世界史の回廊 比較文明の視点』」『比較文明研究』第五号、二〇〇〇年三月、一二五―一三六頁

小論「いま処女作を顧み」『國學院大學学報』二〇〇〇年三月一〇日

小論「思い出の記」『伊東俊太郎博士古稀記念文集』（麗澤大学比較文明研究センター編、行人社）二〇〇〇年四月、六一―六四頁

小論「比較文明学の現在をめぐって」『比文研ニューズレター』第六号、二〇〇〇年四月、一〜二頁

小論「価値」『新マルクス学事典』（弘文堂）二〇〇〇年六月、七九〜八〇頁

チラシ「日本価値観変動研究センター設立趣意書」神川正彦、二〇〇〇年七月

『クオータリーリサーチレポート』（日本価値観変動研究センター）第一号、二〇〇〇年七月

「価値言語分析」批判 政治のことば／権力のことば 日本の政治は「ことばの貧困さ」を自覚することから出直さねば」一頁

「価値言語分析」批判 宗教のことば 日本人の宗教観を偏見と取り去って見直さないかぎり、立直りはむずかしい」二頁

「価値言語分析」批判 経済のことば deregulation を「規制緩和」と訳すか「規制撤廃」と訳すか、その不毛生」三頁

「価値環境分析」批判 生活環境／社会環境 生活環境の根本的な変動に鈍感であつては、改善はのぞめない」四頁

「価値環境分析」批判 文化環境／政治環境 生活環境の根本的な変動にスムーズに対応できないと、「ひずみ」がどんどん堆積する」五頁

「価値環境分析」批判 地球環境 日本列島の廻りに火山活動と地震の活性化がはつきりと示されている」六頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 精神事象 少年殺人事件が日本で相当に特異なかたちで生起している時に」七頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 「人生八十」と「人生五十」ではライフ・サイクルが根本的に変つているはずなのだが」八頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 ヒト・ゲノム解析について、なにがもつとも根本的な価値転換の因なのか」九頁

「価値事象レポート」コメント 「代表的日本人」について」一〇頁

「価値事象レポート」コメント 衆議院選挙（六月二五日）」一〇頁

「価値定置（パリュウ・アロケーション） 倫理的宗教の世界史的系譜と宗教の比較文明」一一頁

「価値解釈の変更 解釈図 言語の構図 東アジアの場合」一二頁

「価値解釈の変更 シュペンゲラーの「同時的」知性紀表の「夏」」一三頁

「夏期年中行事スケジュール比較対照表 日本とキリスト教（ローマ・カソリック）の対照表」一四〜一五頁

『クオータリーリサーチレポート』第二号、二〇〇〇年一〇月

「価値言語分析」批判 文学のことば 「失われた時を求めて」そこに秘められている本当の文学上の意味」一頁

「価値言語分析」批判 倫理のことば ビジネス倫理の不可欠性 「金儲け」も倫理なしには成り立たない事」二頁

「価値言語分析」批判 経済のことば 「ゼロ金利解除」をめぐって、なぜ投資

- の立場はほとんど一〇〇%に近い反対なのか」三頁
- 「価値環境分析」批判 芸術環境 日本人とユダヤ人の創造性は 自己嫌悪 が
ひそんでいるが、その超え方の違い」四頁
- 「価値環境分析」批判 思想環境／教育環境 「なぜ人を殺してはいけないか」
という根源的な問いがかくも容易に発せられるのか」五頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 精神事象 世代間 親子間一般化して老若
観 信頼の欠如が日本でとくに著しいとは」六頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 暴力問題ほど人間にとって根深
い問題はないかもしれない」七頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 遺伝子問題の解明が進められる
につれて遺伝子決定論がたかまるとは」八頁
- 「価値事象レポート」コメント 三角縁神獣鏡の真偽について」九頁
- 「価値定置（バリユー・アロケーション） 日本人の宗教統計・資料について」
一〇頁
- 「価値定置（バリユー・アロケーション） 日本の代表的大学の ギャップ値
＝ 偏差値 による 偏差値」一〇頁
- 「価値定置（バリユー・アロケーション） 「日蓮教」ならびに「日蓮C」（偏
差値）という問題提起をめぐって」一一頁
- 「価値解釈の変更 革命・改革・保守をめぐる三角関係」一二頁
- 「価値解釈の変更 シュペングラーの「同時的」知性紀表の「秋」」一二頁
- 「秋季年中行事スケジュール比較対照表 日本とキリスト教（ローマ・カソリッ
ク）の対照表」一四～一五頁
- 小論「七十歳となつての転機 からだの心操とこころの体操」『月刊健康』（コクミ
ン健康クラブ本部）第五一三号、二〇〇〇年一〇月、四四頁
- 書評「心に染みる詩集（第一四回福田正夫賞）」『焰』第五六号、二〇〇〇年一月
シンポジウム「文明の未来像 君達のミレニアムのなかの生活世界の定礎」『比較文
明』第一六号、二〇〇〇年一月、一七〇～一七七頁、一八五頁（『比較
文明文化への道』所収）
- 小論「会えざるの記（飯田宗一郎三輪学苑長追悼号）」『さんりん』（三輪学苑）第二
〇号、二〇〇〇年二月二五日
- 『クオーターリーリサーチレポート』第三号、二〇〇一年一月
- 「価値言語分析」批判 科学のことは「科学」ということばの呪縛から脱する
には、「文化」の拘束＝梗塞を直すこと」一頁
- 「価値言語分析」批判 倫理のことは「環境倫理」はむしろ東洋の心性に適す
る「場の倫理」ではないのか」二頁
- 「価値言語分析」批判 政治のことは「外交音痴」などという言い方がいまな
お平気で語られる 能天気 でよいのだろうか」三頁
- 「価値環境分析」批判 生活環境／文化環境 なぜセクハラはなくならないか、

- しかもストーリーカーがますます跋扈するとは」四頁
- 「価値環境分析」批判 学問環境／科学環境 捏造と創造とは根源的に区別する事なのだが、「人間の手」では紛らわしい」五頁
- 「価値環境分析」批判 思想環境／知的環境 最近の「日本論」「日本人論」「日本文化論」 二番煎じどころか出がらしである」六頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 精神事象 「日本病」の治療法ははたしてあるのだろうか？」七頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 男脳と女脳、脳神経生理学の進展の悪影響をどう食い止めるか」八頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 ヒト・ゲノム解析のつきには、蛋白質の構造分析がもう始まっているという」九頁
- 「価値事象レポート」コメント NHKの「官僚体質」？の驚異＝脅威？」一〇頁
- 「価値定置（バリュエーション・アロケーション） 公私のマトリックスをめぐって」一頁
- 「価値解釈の変更 ハイデガーとナチズムの問題 二つの沈黙の意味」一二頁
- 「価値解釈の変更 シュペンゲラーの「同時的」知性紀表の「冬」」一三頁
- 「冬季年中行事スケジュール比較対照表 日本とキリスト教（ローマ・カソリック）の対照表」一四～一五頁
- 論文「周辺文明」の変動的考察 沖縄文明の場合 「近世琉球」と「琉球処分」という二つの歴史的段階を中心に」『比較文明研究』第六号、二〇〇一年三月、一七～三八頁（『比較文明文化への道』所収）
- 論文「文明の衝突」と「司馬史観」 梅竿忠夫編著「日本未来へ 司馬遼太郎との対話」を手引きに」『異文化交流』（東海大学外国語教育センター）第四号、二〇〇一年三月、四～二二頁
- 『クォーターリサーチレポート』第四号、二〇〇一年四月
- 「価値言語分析」批判 生活のことば 「生活」ということばをその本当の豊富化の価値基準にするには」一頁
- 「価値言語分析」批判 教育のことば 「教科書」と「テキストブック」は同じ事態を意味しているのか」二頁
- 「価値言語分析」批判 経済のことば 「会社」ということばを正しくわれわれのものとするには、どうするか」三頁
- 「価値環境分析」批判 生活環境 ゆたかな生活環境とは、市場経済的にゆたかとなった同質空間のことではない」四頁
- 「価値環境分析」批判 政治環境 「市民」嫌いをなんとか克服しないと、民主主義は根付かない」五頁
- 「価値環境分析」批判 人間環境 グローバル・スタンダードなどというものは存在していないこと」六頁

- 「精神・身体・物質事象分析」批判 精神事象 「武士道」「大和魂」「日本精神」などは果たして精神事象なのであるうか」七頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 オランダに対する過小評価が歴史的教訓のように言われるが、はたしてそうであるうか」八頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 「脳と犯罪」めぐって、脳研究の危うさをいつも自覚すべきこと」九頁
- 「価値事象レポート」コメント もの(モノ)物)つくり大学のこと」一〇頁
- 「価値定置(バリュー・アロケーション) 普遍的価値あるいは価値の不変性の問題」一一頁
- 「価値提示(バリュー・アロケーション) 公私についての再論」一二頁
- 「価値解釈の変更 シュペンゲラーの「同時的」知性紀表の「春」」一三頁
- 「春季年中行事スケジュール比較対照表 日本とキリスト教(ローマ・カトリック)の対照表」一四〜一五頁
- 詩 「フラッシュ 永遠の今 ラパンかな」『陽叛児通信』(木村雅美)二〇〇一年五月一〇日
- 『クオーターリーリサーチレポート』第五号、二〇〇一年七月
- 「価値言語分析」批判 政治のことは 二党首の発言をめぐって、リーダーシップの芽生え」一頁
- 「価値言語分析」批判 宗教のことは 「皇紀」ということが国会の憲法調査会で明確に発言されたことについて」二頁
- 「価値言語分析」批判 経済のことは 「不良債権処理」とは」三頁
- 「価値環境分析」批判 生活環境 土地問題の大失策に今でもあまりにも鈍感ではなかるうか」四頁
- 「価値環境分析」批判 文化環境 「学力の低下」などという「表層」の事態に囚われ、この世の一大事とばかり騒ぐとは」五頁
- 「価値環境分析」批判 地球環境 未来志向の「歴史的もし」(historical if)の意味するもの ブッシユ京都議定書拒否」六頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 精神事象 精神の四本柱の立て直しをめぐって、もう一歩進んで考えてみよう」七頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 スポーツを介して示されるもの アメリカ大リーグの一事例を手掛かりに」八頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 エネルギー問題の未来を開くものの 燃料電池の新局面」九頁
- 「価値定置(バリュー・アロケーション) ギャップ値 = 偏差値 による偏差値 について」一一頁
- 「価値定置(バリュー・アロケーション) 普遍性の限定について さらなる展開を求めて」一二頁

小論「比較文明学と日本価値観変動研究センターの設立 文明の転換 と 価値

の転換」『比較文明学会会報』第三五号、二〇〇一年七月、三頁

『クオーターリーリサーチレポート』第六号、二〇〇一年一〇月

「価値言語分析」批判 倫理のことば 『信』無くば立たず』 ビジネス倫理の原点 とは」二頁

「価値言語分析」批判 経済のことば 「インフレ目標」と「調整インフレ」とは」三頁

「価値環境分析」批判 芸術環境 短歌、俳句、詩（詩歌）の創作活動における二つの 蔑視 運動は大きな禍根を残した」四頁

「価値環境分析」批判 教育環境 弱い者をいじめる心性の 魑魅魍魎」五頁

「価値環境分析」批判 政治環境 失敗の教訓を受け止め得ないということは、絶えず失敗を繰り返しても平気でいる事だ」六頁

「身体・物質事象分析」批判 精神事象 世代間信頼の欠如が顕わとなって」七頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 「防災」に関する身体反応の「長期化」の局面から 「地震」と「テロ」と」八頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 ロボットの二つの道」九頁

「価値事象レポート」コメント 「ナシヨナリズム」の位置付け 革命・改革・保守の三角関係から」一頁

「価値定置（バリニュー・アロケーション） 世代論の有効性 欧化・国粹（回帰）二〇周期（サイクル）説に対して」二頁

書評「選考雑感（第一五回福田正夫賞）」『焰』第五九号、二〇〇一年一月
論文「沖縄文明の基礎としての沖縄文化」『比較文明』第一七号、二〇〇一年二月、

一四〇～一四五頁（『比較文明文化への道』所収）
『クオーターリーリサーチレポート』第七号、二〇〇二年一月

「価値言語分析」批判 宗教のことば 「ジハード」が「聖戦」と訳されて、翻訳語の問題がそれこそ大変な問題に」二頁

「価値言語分析」批判 芸術のことば 「トリエンナーレ」「ト」「ピエンナーレ」時間と空間の問題として」三頁

「価値環境分析」批判 学問環境／教育環境 「大学改革」とはなにも特殊法人化などのことではない」五頁

「価値環境分析」批判 思想環境・政治環境 「ヘゲモニー論」のゆくえ、いまこそその克服はもつとも肝要な問題ではないか」六頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 精神事象 「精神分裂病」という誤り 言葉の問題としてよりも人間の精神状態のあり方として」七頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 「七人のイヴ」という言い方で最近なかなか注目すべき問題提起がなされている」八頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 ナノ 次元から 超微細世界に係わる所から 物の見方の転換が開かれるか」九頁
「価値定置(バリユー・アロケーション) 貨幣という価値 ユーロ、ドル、円の三角関係」一二頁

『クオーターリリーサーチレポート』第八号、二〇〇二年四月

「価値言語分析」批判 政治のことは「悪の枢軸」とは、「ならず者国家」より以上にWASPの傲慢さを開示する」二頁

「価値言語分析」批判 経済のことは「公的資金の注入」いつまで経つても注入する注入しないの堂堂めぐりが続くのか」三頁

「価値環境分析」批判 生活環境 これからの本当の宗教は宗教以前の「信」に根差していなければならぬ事」四頁

「価値環境分析」批判 人間環境 「文学と悪」という大切な問題の提起があるが、特にバタイユの書から反省したい事」五頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 少子高齢化社会が到来しているのに、価値観の転換は遅々として津住まない」八頁

「価値事象レポート」コメント 「人生という価値事象」二つの枢軸(表と裏)」一〇

「価値定置(バリユー・アロケーション) 「美の文明」をめぐって 安易に流れてはならない事」一一頁

「価値定置(バリユー・アロケーション) 「力の文明」をめぐって どのように転換する事が出来るのか」一二頁

小論「大正デモクラシーと福田正夫」『神静民報』(神静民報社)二〇〇二年六月一日

論文「『周辺文明』の変動論的考察 アイヌ文明の場合 「幕藩制」と「天皇制」という二つの段階を中心に」『比較文明研究』第七号、二〇〇二年七月、二三

〜四六頁 (『比較文明文化への道』所収)

『クオーターリリーサーチレポート』第九号、二〇〇二年七月
「価値言語分析」批判 政治のことは「極右」と「極左」とともに、その存在の必然性とその拡大阻止をめぐって」一頁

「価値言語分析」批判 経済のことは「国價格付け」とはどういう事か、見つとも無い対応はしない事」三頁

「価値環境分析」批判 福祉環境 他者とケアをめぐって根本的に考えようとする著作が刊行されたので」五頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 少子高齢化は社会を変えらうとい
うが」八頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 感性工学ということ」九頁
「価値事象レポート」コメント 「企業統治」(コーポレート・ガバナンス)の

破綻をめぐって」一〇頁

- 「価値定置（バリユー・アロケーション） プロスポーツのランキングから」一頁
- 「価値提示（バリユー・アロケーション） 日本の評価システムの問題性」一二頁
- 小論「大正デモクラシーと福田正夫」『焔』第六一号、二〇〇二年七月
- 『クォーターリサーチレポート』第一〇号、二〇〇二年一〇月
- 「価値言語分析」批判 文学のことば 「大正文学」から見直さないと、日本の近代文学は「自己革新」の芽を自ら摘むことになる」一頁
- 「価値言語分析」批判 倫理のことば 今愛国心がアメリカでは盛り上がっているが、それが政治のことばとなつてはいけないこと」二頁
- 「価値言語分析」批判 政治のことば 「地政学的リスク」とは、いいえて妙な
のか、悪夢の再来なのか」三頁
- 「価値環境分析」批判 芸術環境 イエモト制をめぐって この制度は芸道など
においては日本に特有なシステムなのだが」四頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 拉致問題をめぐって考えねばならぬこと」八頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 始めて自然科学部門において二人の日本人がノーベル賞を受賞した事で」九頁
- 「価値定置（バリユー・アロケーション） 保守改革ということ」一一頁
- 「価値定置（バリユー・アロケーション） 第一次世界大戦後の「社会改造」思想について」一二頁
- 書評「選考後寸感（第一六回福田正夫賞）」『焔』第六三号、二〇〇二年一二月
- 『クォーターリサーチレポート』第二一号、二〇〇三年一月
- 「価値言語分析」批判 科学のことば 「クローン人間」ということばがにわか
にマスコミを賑わしたが、まずことばから」一頁
- 「価値言語分析」批判 政治のことば 「民主帝国」という言い方で昨年暮れから毎日新聞朝刊でシリーズ記事が始まったが」二頁
- 「価値言語分析」批判 経済のことば 「日本病」と「ドイツ病」をめぐって
ドイツは一所懸命に「日本病」と違うというが」三頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 精神事象 アメリカン・ドリームの変質としてアメリカ文明の危機を考えてみると」七頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 外国人力士を受け入れたらアメリカの野球と日本の相撲」八頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 クローン人間という事象をめぐって」九頁
- 「価値定置（バリユー・アロケーション） 「改革」ということを明確にしないと」一一頁
- 「価値定置（バリユー・アロケーション） 「横超」ということから」一二頁

シンポジウム「地球社会と現代文明のゆくえ（比較文明学会第一九回大会公開シンポジウム）」『比較文明』第一八号、二〇〇三年一月、一六二―一六五頁

書評「今田高俊著『意味の文明論序説』」『比較文明』第一八号、二〇〇三年一月、二〇八―二〇九頁

論文「地球社会の多元性と現代文明のゆくえ」『文明』第一巻二〇〇三年二月、三―一二頁

講演「大正デモクラシーと福田正夫」『焰』第六四号、二〇〇三年三月、四二―五四頁

『クオーターリーリサーチレポート』第一二号、二〇〇三年四月

「価値言語分析」批判 生活のことは 最近「心」「こころ」ということばによく出会うが、なにか新しい芽生えになればと思う」一頁

「価値言語分析」批判 政治のことは 今「帝国」ということばが大きな顔をして登場してきた その意味をみつめない」と二頁

「価値言語分析」批判 経済のことは 「デフレ」と「リセッション」をめぐって 短期よりも中長期の展望を重視しないと」三頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 精神事象 文字どおり精神事象ということ は」七頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 セックスとジェンダーをめぐって 性別・性差・性差別」八頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 性差別問題をもう一步押しすめて考えてみよう」九頁

「価値定置（バリュウ・アロケーション）」 「公」と「私」の位置付け」一一頁
「価値定置（バリュウ・アロケーション）」 革命・改革・保守をめぐって 討論の立場について」一二頁

小論「もつと討論を 第四五回公共哲学京都フォーラムに参加して」『公共的良識人』

（京都フォーラム）第一三九号、二〇〇三年六月、八頁

書評「三宅中子著『創造と共生』 著者の集大成的な著作 哲学史的研究を支柱として」『図書新聞』第二六三五号、二〇〇三年六月二八日

『クオーターリーリサーチレポート』第一二二号、二〇〇三年七月

「価値言語分析」批判 政治のことは 「ネオコンの論理」がなにか新しい考え 方のように罷り通っているが、実は古い論理にすぎぬ」一頁

「価値言語分析」批判 文学のことは 「芹沢光治良」を改めて読み直す機会が 与えられたので、取り上げてみる」三頁

「価値環境分析」批判 文明環境 「普遍」を求めることは不可避なのだが、そのために安易な先入見が偏見を生む」四頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 精神事象 「価値観」の調査さらに国際比較調査は、いかに調査のレベルを超えることが出来るか」七頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 他者のうちに自己を見る か

- ら 自己のうちに他者を見る へ」八頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 SARS（重症急性呼吸器症候群）終息宣言を聞きながら考えること」九頁
- 「価値定置（バリュー・アロケーション） アメリカ文明の位置付け もはや「欧米」ではないとするなら」一一頁
- 「価値定置（バリュー・アロケーション） アメリカ大リーグの日本選手の活躍 について」一二頁
- 小論「沈黙の神と光治良の夢と調べ」『芹沢・井上文学館友の会会報』第一八八号、二〇〇三年九月一日、一頁
- 『クォーターリサーチレポート』第一四号、二〇〇三年一〇月
- 「価値言語分析」批判 文学のことは「大正文学」の重要性について そのあ
るべき姿を正しく位置づけないと」一頁
- 「価値言語分析」批判 文明のことは「グローバリゼーション」に関してまた
また不毛な政治利用が目につくようになった」三頁
- 「価値環境分析」批判 文明環境 イスラム世界はなぜ没落したか いつでも
人間の知恵は後知恵である」四頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 今日日本は強い閉塞感におおわれ
ているが、どうしたらそれを克服することができるか」八頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 CTBT (comprehensive test ban
treaty) 包括的核実験禁止条約をめぐる」九頁
- 「価値事象レポート」コメント 「理性批判」の系譜 カントからスピヴァクへ」
一〇頁
- 「価値定置（バリュー・アロケーション） 二一世紀における世界システムの変
容について 旧 中心文明 の復興」一一頁
- 「価値定置（バリュー・アロケーション） アメリカ文明が新 中心文明 とな
りえないと、私が考える理由」一二頁
- 書評「第一七回福田正夫賞選考評」『焰』第六六号、二〇〇三年一月
- 共著『文明間の対話に向けて 共生の比較文明学』（吉澤五郎・染谷臣道編、世界思
想社）二〇〇三年二月、「比較文明文化の現代的課題」九八〜一一九頁
- 書評「北沢方邦著『感性としての日本思想 ひとつの丸山真男批判』、『比較文明』（行
人社）第一九号、二〇〇四年一月、二五〜二五三頁
- 『クォーターリサーチレポート』第一五号、二〇〇四年一月
- 「価値言語分析」批判 科学のことは「科学」ということをめくって、日本
語の問題として自覚しなければならないこと」一頁
- 「価値言語分析」批判 政治のことは「帝国」と「ネーション」について考え
るに時機をえた特集号（『比較文明』第一九号）が出た」二頁
- 「価値言語分析」批判 文明のことは「介入の義務」(devoir d'ingérence)を政
治的に悪用しないこと」三頁

- 「価値環境分析」批判 文明／歴史環境 「文明と帝国」という原理が世界史の巨視的な時代区分の軸であること」四頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 エイズ(HIV)問題をなにかわれわれ自身と関係がないかのように軽視していかないか」八頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 バイオテクノロジーとコンピュータサイエンスが協働して新しい道の開拓が」九頁
- 「価値事象レポート」コメント 旧 中心文明 の没落と復興をめぐって インドの場合から」一頁
- 「価値定置(バリユー・アロケーション) 人類文明文化史の起源と目標について 第一次枢軸時代から第二次枢軸時代へ」一二頁
- 小論「わたくしにとっての思い 健康随想」『帰れ自然へ アルク』(日本万歩クラブ)第四四号、二〇〇四年二月、二頁
- 討論「SESSION 7 総合討論(司会 神川正彦・山田辰雄)」『公開シンポジウム「科学技術と宗教」会議録』(伊東俊太郎・竹内啓編、重点領域研究「文明と環境」総括班)二〇〇四年三月、一七五～二〇五頁
- 『クオータリーリサーチレポート』第一六号、二〇〇四年四月
- 「価値言語分析」批判 生活のことは 「生活」ということを再びとり上げる」一頁
- 「価値言語分析」批判 文明のことは 「武士道」「ジェントルマン」そして「コモンマン」」一頁
- 「価値言語分析」批判 歴史のことは 「近代」と「近世」をめぐって」三頁
- 「価値環境分析」批判 歴史環境 日露戦争一〇〇年に当たって ネルーの世界史から」四頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 健康志向には落とし穴があるのだから」八頁
- 「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 鳥インフルエンザなど、ウィルスとの戦いから、問題解決とは」九頁
- 「価値事象レポート」コメント 旧 中心文明 の没落と復興をめぐって 中国の場合」一頁
- 「価値定置(バリユー・アロケーション) 価値選択と特殊価値の闘いをめぐって」一二頁
- 『クオータリーリサーチレポート』第一七号、二〇〇四年七月
- 「価値言語分析」批判 政治のことは 「自己責任」「責任」「戦争責任」なにかことばの捉え方に問題が」一頁
- 「価値言語分析」批判 文明のことは 「知的様式」(Intellectual Style)と「このとをめぐって」」二頁
- 「価値言語分析」批判 人間のことは 「ライフ」に対して「生命」「生活」「人生」のかかわりを求めて」三頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 精神事象 心身問題から身体性の回復へ」
七頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 パワーに対する弱さとパワーの
弱さ」九頁

「価値事象レポート」コメント 日韓大衆文化の交流をめぐつて」一一頁

「価値定置（バリユー・アロケーション） トインビーの長期射程の解決策 宗
教的解決とは」一二頁

『クォーターリサーチレポート』第一八号、二〇〇四年一〇月

「価値言語分析」批判 文学のことば 「世界文学」ということばをめぐつて、
明治以来の固定観念を改めるには」一頁

「価値言語分析」批判 哲学のことば 「生」ということばの問題性について
前号につづけて考えてみたい」二頁

「価値言語分析」批判 文明のことば 「自由の伝統」ということが、アメリカ
では特に強調されるということから」三頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 死刑廃止に先立って絞首刑の廃
止を」八頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 「ユビキタス」という耳慣れな
いことばが、今年はテレビでもしばしば聞かれるようになった」九頁

「価値事象レポート」コメント 第一三一回芥川賞受賞作「介護入門」のモブ・
ノリオをめぐつて」一一頁

「価値定置（バリユー・アロケーション） ノーベル賞における評価の問題 科
学と文学の場合」一二頁

書評「北沢方邦著『脱近代へ 知社会文明』」「比較文明」第二〇号、二〇〇四年一
一月、二二二―二三四頁

『クォーターリサーチレポート』第一九号、二〇〇五年一月

「価値言語分析」批判 科学のことば 「進化」は科学の大切なキーワードであ
りながら、悪用されがちなのは」一頁

「価値言語分析」批判 文明のことば 「パンアジア」という表現をめぐつては
つきりとさせねばならないこと」二頁

「価値言語分析」批判 自然のことば 「地震・津波」をめぐつて、いよいよし
っかりした考え方をもちねばならない」三頁

「価値環境分析」批判 政治環境 「東アジア共同体」ということがアセアンの
場面からリアルに語られるようになってきたが」六頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 ネットワーク思考の功罪をめぐ
つて、ネットワークこそ切に求められるものだから」八頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 法則と規則をめぐつて、「ルー
ルにしたがう」という意味を基本にして」九頁

「価値事象レポート」コメント 市町村大合併について 「平成の大合併」はな

にを意味するか」一一頁

「価値定置(バリユー・アロケーション) 国際連盟から国際連合へ カント没後二〇〇年」一一二頁

『クォーターリサーチレポート』第二〇号、二〇〇五年四月

「価値言語分析」批判 生活のことば 最後にふたたび取り上げる、「市民」「国民」「民衆」「庶民」などをめぐって」一頁

「価値言語分析」批判 文明のことば 「公共」「公共性」「公共的」など、最近このような表現が表立って語られているが」二頁

「価値言語分析」批判 倫理のことは 「生命倫理」と「環境倫理」の統合 「場の倫理」において」三頁

「価値環境分析」批判 未来環境 パンアジア運動と第二次枢軸時代の内展を」六頁

「精神・身体・物質事象分析」批判 身体事象 老いをみつめる」八頁
「精神・身体・物質事象分析」批判 物質事象 アメリカのパワーの行く末を力学的見地から考察してみよう」九頁

「価値事象レポート」コメント 平成市町村大合併をかえりみて」一一頁

「価値提示(バリユー・アロケーション) 比較文明的価値定置から想定される二〇五〇年の世界文明マップ」一二頁

「[終刊のあいさつ]」一六頁

単著『比較文明文化への道 日本文明の多元性』刀水書房、二〇〇五年八月、全三一頁

小論「歴史における終末と時間」『人文知の可能性 日本学会議哲学系公開シンポジウム提題レジュメ集』二〇〇五年九月、一八〜一九頁

小論「クォーターリサーチレポート」の刊行とその後」『國學院大學哲学学会会報』第三一號、二〇〇六年、一〜五頁

書評「高橋誠一郎著『司馬遼太郎の平和観 坂の上の雲』を読み直す」『比較文明』第二一號、二〇〇六年二月、二三七〜二三九頁

共著『文明への視座』(東海大学文明研究所編、東海大学出版会)二〇〇六年三月、
「地球社会の多元性と現代文明のゆくえ」一一三〜一四三頁

論文「大正デモクラシーと福田正夫」『焰七五周年記念 焰詩集一九二九〜二〇〇五』二〇〇六年六月、四〇八〜四二三頁

短文「礼状」『焰』七五周年記念、焰詩集」『焰』第七四号、二〇〇七年三月、五七頁

小論「二一世紀とトインビー ナショナリズムを超えられるか」『二一世紀とトインビー』(トインビー・市民の会)第一〇号、二〇〇七年七月

書評「尾崎和彦著『スウェーデン・ウプサラ学派の宗教哲学 絶対観念論から価値ニヒリズムへ』」『ヘーゲル學報』(京都ヘーゲル讀書会)第六号、二〇〇八年九月、一五五〜一六四頁

【付録】二〇〇八年三月二五日の講演「内容骨子」

題名「二一世紀と文明」

まえおき 問題提示 自己紹介をかねて
人類文明文化史の展望と目標 その折り返し（マラソン）説とともに
「ものごとの見方」の転換（パラダイム・シフト） ヴィーコと「バロツク期」（一六〇〇～一七五〇）をおさえて
二一世紀と文明 滅亡か再生か
まとめ 民主化と第二次枢軸時代の形成へ

補足資料

- 一 敵 味方 の政治原理に対する宗教原理
 普遍宗教 末法思想、終末観
 敵≠仏 常不輕菩薩（法華経）
 敵≠隣人 善良なサマリヤ人（新約聖書）
- 二 第二次枢軸時代形成の哲学思考
- 1 コト・モノ 思考による 場の哲学 ≡ 場の倫理
- 2 二重生命思考
 コト としての生命と モノ としての生命の統合
- 3 五重方界論
 人間界（心身界・社会界・知脳界）
 生命界
 地球界
 宇宙界
 空観界

*この講演は、東京虎ノ門の商工会館六階にて開かれた都立高校（現東京都立大学附属高等学校）同窓生の集まりで行われた。

神川正彦著述目録

編者 柴田隆行

(tamast@toyonet.toyo.ac.jp)

発行者 神川正彦先生を偲ぶ会

発行日 二〇〇九年八月二日

製本 日光企画